

2020年3月

研究代表者：西澤一光

本サイトは、科研費補助事業として2016年4月にスタートした研究「『万葉代匠記』の歴史的意義と思想的背景について」(基盤研究(C)(一般)、課題番号16K02378)の成果を広く社会に公開し、学術の振興に寄与することをめざして2017年2月17日に立ち上げたわけではありますが、やむを得ない諸般の事情によりこれまで二年あまりのあいだ、記事の更新ができませんでした。

しかしながら、私どもの補助事業もこのたび3年の事業期間に加えるに1年の延長期間の終了を迎えることになりました。つきましては、以下の要領でこれまでに得られた知見を整理し、情報公開を再開いたします。

記

1. 2017年3月2日アップロードの文章「005. 契沖は同時代においてどう評価されていたか -その1-」に続けて、「006. 契沖は同時代においてどう評価されていたか -その2- 本居宣長から見た契沖①」を再開後の第1稿とし、以後順に007、008と原稿番号をふることにします。

2. 原稿003~022において、われわれは契沖『万葉代匠記』についてなされてきた評価とそれらが見逃してきた問題について、漸次明らかにしていきます。

もっとも端的に言えば、契沖の『万葉代匠記』の歴史的意義の本質はその「解釈学」を捉えることによって明確になると、この4年間の研究を通じて考えるに至りました。これまでの契沖研究にはこの視点が欠けていたと考えています。

3. 今後、本サイトにおける研究内容の公開は、<契沖の閲歴と学問形成の関連>、<『万葉代匠記』の解釈学的方法>、<契沖の和歌と思想の関連>といったテーマへと歩みを進めていく予定です。

なお、初めの数編の原稿では、研究史的な整理がつづいています。従来の見方を踏まえ、たうえで契沖の「解釈学」について述べていく段取りですのでご了承ください。

以上